

# LRQA独立保証声明書

シスメックスグループのサステナビリティデータブック 2022及びサステナビリティWEBサイトに掲載される  
2021年度のサステナビリティ活動に関する保証

この保証声明書は、契約に基づいてシスメックス株式会社に対して作成されたものである。

## 保証業務の条件

LRQA リミテッド(以下、LRQAという)は、シスメックス株式会社(以下、会社という)からの委嘱に基づき、サステナビリティデータブック 2022及びサステナビリティWEBサイトに掲載される2021年度(2021年4月1日～2022年3月31日)のサステナビリティ活動に関する開示情報(以下、報告書という)に対して、検証人の専門的判断による重要性水準において、AA1000 ASSURANCE STANDARD v3タイプ2 – アカウンタビリティ原則の充足状況および特定のパフォーマンス情報の信頼性の保証を用いて、中程度の水準の独立保証業務を実施した。

LRQAの保証業務は、会社とその国内外連結子会社における運営及び活動に対して、以下の要求事項を対象とする。

- マテリアリティ関連開示情報のAA1000 ACCOUNTABILITY PRINCIPLES 2018への適合性の検証
- 以下の環境・社会データのみに関する会社の定める算定・報告ルールに従っていることの検証
- 以下の環境・社会データのみに関する正確性及び信頼性の評価※1
  - スコープ1 GHG排出量(固定排出源からのエネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量および社用車からのCO<sub>2</sub>排出量※2)[トンCO<sub>2</sub>]
  - スコープ2 GHG排出量 [トンCO<sub>2</sub>]\*※3
  - スコープ3 GHG排出量(物流におけるCO<sub>2</sub>排出量)[トンCO<sub>2</sub>]\*※4

- エネルギー使用量 [GJ]
- 水使用量 [千m<sup>3</sup>]
- 国内産業廃棄物排出量 [トン]\*※5
- 女性マネジメント比率 [%]\*※6

LRQAの保証業務は会社のサプライヤー、業務委託先、及び報告書で言及される第三者に関するデータや情報は対象としていない。

LRQAの責任は会社に対してのみ負うものとする。本声明書の脚注で説明されている通り、LRQAは会社以外へのいかなる義務または責任を放棄する。会社は、報告書内の全てのデータ及び情報の収集、集計、分析、公表、及び報告書の基となるシステムの効果的な内部統制の維持に対して責任を有するものとする。報告書は会社によって承認されており、その責任は会社にある。

## LRQAの意見

LRQAの保証手続の結果、会社が全ての重要な点において、

- AA1000 アカウンタビリティ原則2018に準拠していない
- 開示するマテリアリティ関連情報及び環境・社会データに関して、会社の定める基準に従って報告書を作成していない
- 正確で信用できるマテリアリティ関連情報及び下表1に要約される環境・社会データを開示していない

ことを示す事実は認められなかった。この保証声明書で表明された検証意見は、中程度の水準の保証水準、及び検証人の専門的判断に基づいて決定された。

- ※1 GHGの定量化には固有の不確かさが前提となる
  - ※2 社用車からのCO<sub>2</sub>排出量は、日本国内分のみを対象としている
  - ※3 日本国内分はマーケット基準、海外分はロケーション基準で算定している
  - ※4 集計対象はアイスクエア・バイオスクエア・関西・小牧の各物流センター並びに本社パーツセンターの5拠点から、a)国内一次出荷先まで、b)国内の港・空港まで(海外顧客向け)、及び国内の港・空港から海外各地域の港・空港までの輸送のみで、このうち本社パーツセンターのb)は算定されていない
  - ※5 国内の主要事業所、機器工場、及び試薬工場のみを集計対象としている
  - ※6 シスメックス株式会社のみを算出対象としている
- 注: 中程度の水準の保証業務の証拠収集は、高い水準の保証業務に比べて少ない範囲で行われ、各拠点を訪問して元データを確認するより集計されたデータに重点を置いている。従って、中程度の水準の保証業務で得られる保証水準は高い水準の保証業務が行われた場合に得られる保証に比べて実質的に低くなる。

表1. シスメックスグループの2021年度の環境・社会データの要約

|                                                  |                          |
|--------------------------------------------------|--------------------------|
| スコープ1 GHG排出量<br>(固定排出源からのエネルギー起源排出量および社用車からの排出量) | 4,023 t-CO <sub>2</sub>  |
| スコープ2 GHG排出量                                     | 15,901 t-CO <sub>2</sub> |
| スコープ3 GHG排出量(物流における排出量)                          | 26,033 t-CO <sub>2</sub> |
| 総エネルギー量                                          | 524,686 GJ               |
| 水使用量                                             | 487 千m <sup>3</sup>      |
| 国内産業廃棄物排出量                                       | 540 t                    |
| 女性マネジメント比率                                       | 8.7 %                    |

## 保証手続

LRQAの保証業務は、AA1000 ASSURANCE STANDARD v3タイプ2 - アカウンタビリティ原則の充足状況および特定のパフォーマンス情報の信頼性の保証に準拠して実施された。保証業務の証拠収集プロセスの一環として、以下の事項が実施された。

### マテリアリティ関連情報開示

- 関係する全てのステークホルダーを把握していることを確認するため、会社のステークホルダーの特定および決定のプロセスを評価した。
- 報告書に重要な課題が網羅されていることを確認するため、会社のマテリアリティの特定および決定のプロセスを審査した。
- ステークホルダーが関心を持つ課題に関する対話が行われていることを確認するため、会社のステークホルダーエンゲージメント手続を評価した。
- 環境や社会に重要な影響を及ぼすサステナビリティのパフォーマンスを把握し開示していることを確認するため、会社のKPI設定プロセスおよび情報開示の手法について検証した。
- LRQAは、サステナビリティを担当する主要な関係者へのインタビューと、書類と関連する記録をレビューすることによってこれらを実施した。インタビューはCOVID-19の世界的な感染拡大に伴う会社の訪問者の職場への入場制限により、Microsoft Teamsを用いてリモートにより実施した。

### 環境・社会データ

- 報告書内に重大な誤り、記載の漏れ及び誤りが無いことを確認するための、会社のデータマネジメントシステムを審査した。LRQAは、内部検証を含め、データの取扱い及びシステムの有効性をレビューすることにより、これを行った。
- データの収集と報告書の作成に関わる主たる関係者へのインタビューを行った。
- サンプリング手法を用いて、集計された2021年度の環境・社会データに関する記録および情報の検証を行った。
- 2021年度の環境・社会データに関する記録および情報の検証を行った。
- COVID-19の世界的な感染拡大に伴う会社の「訪問者の職場への入場制限」の実施により、データマネジメントシステムの有効性を確認するため、本社及びシスメックスメディア、加古川工場は、電子メール及びMicrosoft Teamsを使用したリモート検証により実施した。

## 観察事項

保証業務における観察事項及び発見事項は以下のとおりである。

### マテリアリティ関連情報開示

- 包摂性  
会社のステークホルダーエンゲージメントから除外されている主要なステークホルダーグループは発見されなかった。会社は創業当時から位置づけているお客様、従業員、取引先に加えて、株主、社会も重要なステークホルダーとして認識しており、トップマネジメントによりステークホル

ダーへのコミットメントの表明が行われている。エンゲージメントのアウトプットを改善につなげるために、更なる意欲的な取り組みが期待される。

### 重要性

会社の報告書から除外されているサステナビリティに関する重要な側面は発見されなかった。会社はサステナビリティに関連する社会課題に対応するため、既に確立された方法論に沿って2021年にマテリアリティを再評価し決定した。この過程においては、主要なサステナビリティの基準を踏まえて課題の抽出が行われ、専用のマトリックスを用いて会社とステークホルダーの双方の観点から重要性が評価され、この決定を経営層が承認している。

### 対応性

会社はステークホルダーの関心を把握し、対応する正式なプロセスを有している。会社は関連部門からのインプットを集約するだけでなく定期的に有識者との懇談を実施しており、選定した重要課題に対する活動実績はウェブサイトや報告書においてタイムリーに報告されている。

### インパクト

会社はサステナビリティのパフォーマンスに関するデータ及び情報を収集し開示するためのシステムを確立している。会社は統合報告書やサステナビリティデータブックを通じて情報を開示しており、ステークホルダーの関心が高い情報については第三者保証を受けている。2021年に決定したマテリアリティに基づき、重要な指標に関するKPIの設定を進めている。



## 環境・社会データ

会社は、引き続きデータと情報管理における品質管理、品質保証に努めることが期待される。

## 基準、適格性及び独立性

LRQAはISO14065“温室効果ガス—認定又は他の承認形式で使用するための温室効果ガスに関する妥当性確認及び検証を行う機関に対する要求事項”、ISO17021-1 “適合性評価—マネジメントシステムの審査及び認証を行う機関に対する要求事項 — 第1部: 要求事項”に適合する包括的なマネジメントシステムを導入し、維持している。これらは国際会計士倫理基準審議会による国際品質管理基準<sup>1</sup>と職業会計士の倫理規定における要求も満たすものである。

LRQAは、その資格、トレーニング及び経験に基づき、適切な資格を有する個人を選任することを保証する。

全ての検証及び認証結果は上級管理者によって内部でレビューされ、適用された手続が正確であり、透明であることを保証する。

LRQAが会社に対して実施した業務はこの検証のみであり、それ自体が我々の独立性あるいは中立性を損なうものではない。

署名

2022年9月13日

Koji Tagami



AA1000  
Licensed Report  
000-11/V3-84U4E

田上幸治

LRQA 主任検証人

LRQAリミテッド

神奈川県横浜市西区みなとみらい2-3-1 クイーンズタワー  
A 10F

LRQA reference: YKA00000940

LRQA, its affiliates and subsidiaries, and their respective officers, employees or agents are, individually and collectively, referred to in this clause as 'LRQA'. LRQA assumes no responsibility and shall not be liable to any person for any loss, damage or expense caused by reliance on the information or advice in this document or howsoever provided, unless that person has signed a contract with the relevant LRQA entity for the provision of this information or advice and in that case any responsibility or liability is exclusively on the terms and conditions set out in that contract.

The English version of this Assurance Statement is the only valid version. LRQA assumes no responsibility for versions translated into other languages.

This Assurance Statement is only valid when published with the report to which it refers. It may only be reproduced in its entirety.

Copyright © LRQA, 2022.